

群 教 セ	G15 - 01
	令元.271集
	小-キャリア

令和元年度長期社会体験研修報告書

研修先：サンデンホールディングス株式会社

長期社会体験研修員 原田 香織

研修内容

1 研修先の概要

サンデンホールディングス株式会社は、1943年に伊勢崎市に三共電器株式会社として設立され、現在は、世界22カ国47拠点で事業を展開するグローバルな企業である。主な事業は、カーエアコンシステム製品を取り扱う自動車機器事業、店舗システムや自動販売機の分野を中心とする流通システム事業（2019年9月現在）である。八斗島事業所、赤城事業所を中心に開発・製造し、世界各地の拠点で生産を行っている。

2 研修先での主な研修内容

(1) 新入社員研修【4月1日～4月12日】(研修場所：サンデンコミュニケーションプラザ)

新入社員対象の研修に参加し、社是や企業理念の理解、社会人としてのビジネスマナー研修、グループでの仕事体験研修、環境実習、安全衛生教育や品質についての研修などを受講した。

(2) 生産現場研修【4月15日～8月30日】(研修場所：サンデンフォレスト・赤城事業所)

サンデン・リテールシステム株式会社にて、生産本部、開発本部、品質本部の業務を経験することで、ものづくりの仕組みについて理解を深めた。生産本部の製造部では、実際に自動販売機や冷凍ショーケースの製造ラインに入り製品づくりに携わった。また、総務課において社員の安全衛生活動に参加し、現場での危険源の抽出や、交通安全活動として駐車場の車両チェックを行った。開発本部では、新製品の負荷試験やコーヒーマシンでの茶葉の搬出・抽出試験を行った。品質本部では製品評価試験や品質検査を行い、製品の不具合に対する現象把握と因果探求を体験した。

(3) 環境社会活動研修【9月2日～3月25日】(研修場所：サンデンフォレスト・第一宅盤)

サンデン・ビジネスアソシエイト株式会社ファシリティ部ECOSチームにて、小学生を中心とした施設訪問者の受入れ、環境学習、自然体験活動や安全巡回、自然保護活動など、森の活用と管理をする業務に携わった。また、小学校教員向けの補助教材やサンデンフォレストの森林や人材を活用した「総合的な学習の時間」の学習プランを作成し、関係機関に向けて営業活動を行った。

3 キャリア教育実践

(1) キャリア教育資料について

企業研修での学びを基に、「みんなで作る気持ちのよい環境」と題して、企業がよりよい職場環境づくりのために取り組んでいる3S運動（整理・整頓・清掃）をテーマに、小学校高学年向けのリーフレットを作成した。学校においても、児童が気持ちよく学習や運動に取り組むために、よりよい環境づくりをしていくことの大切さを伝える内容とした。

(2) 実践の概要（伊勢崎市立あずま南小学校）

授業実践

題材名 『南小よい子の約束』お掃除バージョンアップ大作戦

～心をこめて、そうじをしよう～(学級活動)

対象 第5学年2組 34名

企業では、「安全な職場・快適な職場・効率的な職場」を作るために3S運動に取り組み、生産活動を行っていた。その取組を、学校で課題のある清掃活動と関連させて取り上げ、課題に対する解決方法を話し合うことが、児童の主體的な行動につながると考え本授業を設定した。本時では、

解決方法を話し合うとともに、一人一人が自分に合った具体的な行動目標を決定した。その後、目標が継続して実践できるよう、3週間にわたり自己評価と活動を内省する振り返りを行った。

研修成果

1 生産現場研修について

生産現場研修では、一つの製品を作り上げるまでに様々な部署が関わり、工夫や改善を繰り返しながらものづくりに取り組んでいることを学ぶことができた。どの部署でも、常に無駄なく効率的に、けがなく安全に作業ができる環境づくりに取り組んでいた。また、社員の安全に対する意識を高め、決めたルールを守る風土づくりにも力を注いでいた。社員一人一人が気持ちよく仕事をするには、品質のよい製品を作ることにつながり、さらにお客様の喜びへとつながることを学んだ。学校でも、環境づくりに対する意識を高め、自ら進んで気持ちのよい環境づくりに取り組むことができる力を養っていききたい。

2 環境社会活動研修について

サンデンフォレストは「環境と産業の矛盾なき共存」をコンセプトに、地域社会や利用者のことを考え、森を管理し、森を生かした自然プログラムを実施している。自然豊かで誰もが安全に利用できる環境を維持するためには、外部との連携が必要不可欠であり、地域の方々や様々な団体と情報交換しながら、地域社会と一体となって活動している。児童が安心・安全に気持ちよく学べる環境を作るためには、外部からの情報を積極的に吸収し、地域と連携していくことの大切さを実感した。

3 キャリア教育実践について

授業実践では、生産現場で体験してきたことを学校生活に置き換え、身近なこととして具体的に考えることができた。清掃活動の改善に向けて、思考ツールを用いて話し合い、現状を把握し原因を探ることで解決策を考えさせることができた。そして、その解決策を基に自らの清掃活動をもう一度振り返ることで、一人一人が自分自身の個人目標を決定することができた。また、児童が自分の清掃に対する取組について振り返る活動を3週間にわたって取り組んだことで、一人一人の意識の変化だけでなく、目に見える形で清掃が改善できた。清掃活動を通じて、目標達成の喜びや仲間と協力して取り組むことの大切さを味わわせることができた。

まとめ

製造現場や環境社会活動の研修を受け、質のよいものづくりを行うための取組や社会貢献活動の重要性を知ることができた。品質を維持し向上させていくためには、効率を考えて作業するだけでなく、3S運動を通して、安全で快適な働きやすい環境を整えることが基礎となっていることを体感できた。「守ることを決めて、決めたことを守る」風土づくりのために、社員一人一人の意識を高め、安全衛生教育を徹底して行うなど、企業の不断の努力を学ぶことができた。学校においても、日常の教育活動の積み重ねを大切に、児童が毎日気持ちよく学校生活を送ることができるよう継続的な指導に努めていきたい。

また、地域との関わりを大切に、産業を発展させながら環境を守っていくことは、企業の社会における存在意義を高めるだけでなく、今後、持続可能な社会を実現させる上でも最重要な課題であると感じた。今後、学校と社会とのつながりを常に意識し、どのようにして地域や社会とつながっていくのかを模索し、地域と連携を図りながら教育活動を進めていきたい。そのために、今後も積極的に新しいものや人とのつながりを求め、学び続ける姿勢を大切に、学校でのキャリア教育の充実に努めていきたい。

(担当指導主事 小倉 久代)